

(共同リリース)

2020年6月16日  
 日本航空株式会社  
 株式会社ブリヂストン

**JAL とブリヂストン、タイヤ摩耗予測技術を活用し  
 航空機整備作業を効率化、新たな価値の共創へ**

日本航空株式会社(以下、JAL)と株式会社ブリヂストン(以下、ブリヂストン)は、大阪国際空港(伊丹)を拠点に JAL グループの地域路線を運航する株式会社ジェイエア(以下、J-AIR)の航空機を対象に、タイヤ摩耗予測技術を活用した、より精度の高い計画的なタイヤ交換を 2020 年 5 月より開始しました。

航空機用タイヤは、機体の速度と重量を支えながら離着陸を繰り返すという過酷な条件下で使用され、通常、航空機が数百回離着陸する毎に新しいタイヤに交換する必要があります。さらに使用環境によってタイヤの摩耗進展速度が異なるため、これまで、突発的なタイヤ交換や、交換時期の集中が発生していました。今回、JAL/J-AIR の持つ航空機に関する知見・フライトデータとブリヂストンの持つタイヤに関する知見・デジタルを活用した摩耗予測技術をかけ合わせることで、タイヤの交換時期を予測することが出来るようになり、精度の高い計画的なタイヤ交換が可能となりました。

その結果、ホイール・タイヤ在庫の削減および航空機整備作業の効率化などが期待されます。また、生産・使用過程での CO<sub>2</sub> 排出量を削減することで「地球との共生」へと繋げていきます。

JAL とブリヂストンは協働でのチャレンジを続け、その先にある新しい価値の創造と地域・世界への貢献を目指していきます。



開始時期：2020年5月

対象機材：エンブラエル E170・E190 型機

なお、実際の整備処置は、JAL/J-AIR 機材の整備を担っている株式会社 JAL エンジニアリングが実施します。

以上